

ひ 沼 ラムサールガイドブック

このガイドブックでは、沼沼で見られる動物や植物、そして沼沼の生態系せいだいけいを守るために活動しているみなさんを紹介しています。

ガイドブックを片手かたてに、沼沼の“魅力”みりょくや“重要さ”を、もっと発見し、沼沼の感動を味わってください！

ラムサール条約登録湿地 沼沼

ラムサール条約

正式名称：「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地しっちに関する条約」

条約の目的：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息する動植物の保全とその適正な利用

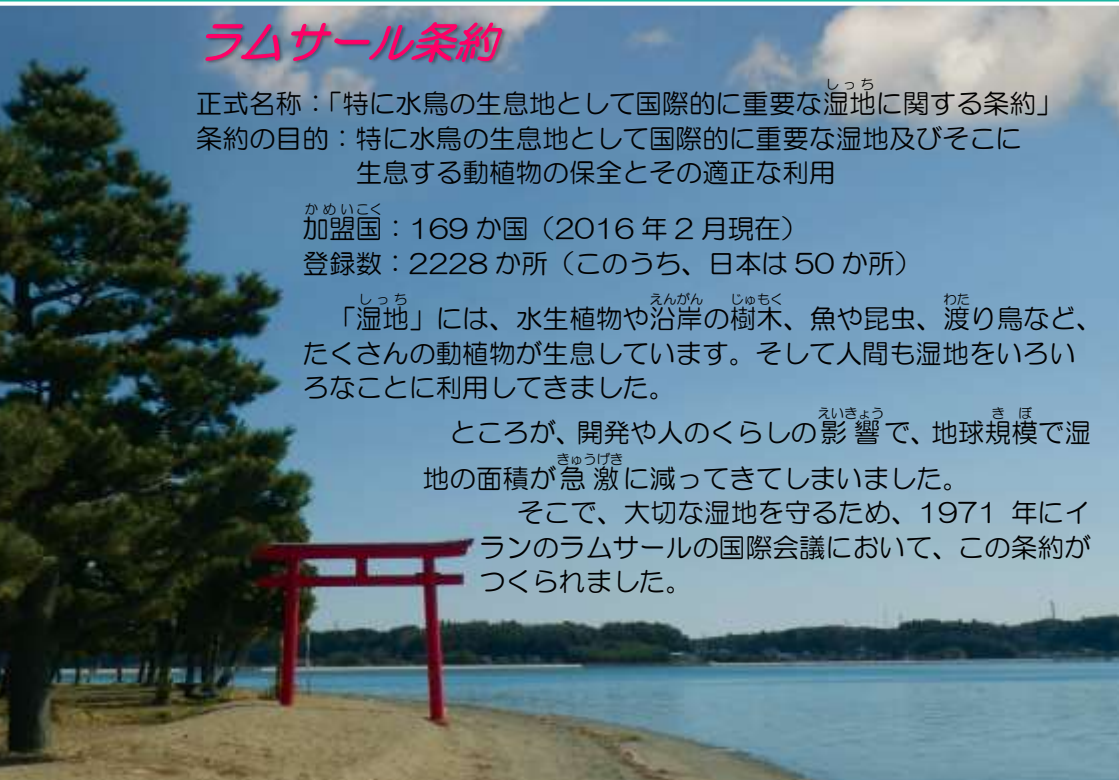
加盟国かめいこく：169 か国（2016 年 2 月現在）

登録数：2228 か所（このうち、日本は 50 か所）

「湿地しっち」には、水生植物や沿岸の樹木えんがん しゅもく、魚や昆虫、渡り鳥わたなど、たくさんの動植物が生息しています。そして人間も湿地をいろいろなことに利用してきました。

ところが、開発や人のくらしの影響えいきょうで、地球規模で湿地の面積が急激きゅうげきに減ってきてしまいました。

そこで、大切な湿地を守るため、1971 年にイランのラムサールの国際会議において、この条約がつけられました。



涸沼のこと

涸沼の成り立ち

今から約 6000 年前に海水面が上昇し、入江の出口が周辺の川の土砂にふさがれて、今より広大な沼ができました。20 世紀になって涸沼沿岸の干拓が行われ、現在の沼の形状、大きさとなりました。



涸沼は汽水湖

涸沼は、淡水と海水が混じり合う、関東で唯一の汽水湖です。

涸沼は、総長 64.51km の涸沼川の一部で、笠間市の国見山を源流とし、川幅が広がって涸沼となり、ふたたび涸沼川となって那珂川に合流します。海から近く、満潮時には逆流して海水が涸沼に混入します。

涸沼の水質

涸沼は昔、泳げるほどきれいな湖でした。

経済活動の発展や生活様式の変化などにより、流入河川の水質が悪化し、涸沼も水質汚濁が進行しました。現在では、排水処理対策などにより少しずつ改善されてきました。

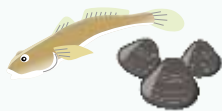
涸沼の湿地帯

涸沼と涸沼川流域には、昔から広大な水田や湿地帯が広がり、様々な湿生植物を育てられました。

涸沼は海水の混じる汽水湖であるため、その環境に適した特有の植物も多く生育してきました。しかし、近年になり、水田農法の近代化や除草剤の使用、護岸工事などによる環境の変化により、その種類は少なくなってきました。

涸沼の漁業

涸沼は、全国でも有名な「ヤマトシジミ」の産地です。
ワカサギやハゼも貴重な水産資源です。



涸沼の水は、汽水であるため、その塩分濃度^{のうど}がヤマトシジミの生育に適しています。また、沼底の地形や砂泥^{さでい}の状態も良く、エサとなるプランクトン類も豊富に生息しています。かつては「涸沼ニシン」と呼ばれるニシンが水産業を支えていた時代もあり、ニシンの生息地として、涸沼は太平洋側の南限として知られています。

涸沼の生物多様性

涸沼とその周辺には、多くの動植物が生育・生息しています。

植物：398 種類 魚：109 種類 鳥：86 種類

こん虫：トンボ 43 種類、チョウ 48 種類

【出典：茨城県自然博物館第2次総合調査（1997年～1999年）】

涸沼は野鳥の宝庫

涸沼は、渡りをする水鳥の中継地^{ちゅうけい}（渡りの途中に立ち寄る場所）や冬鳥の越冬地^{えつとう}（冬を越す場所）として重要な役割を果たしています。

汽水湖である涸沼には、多くの魚介類^{ぎょかい}が生息していることから、それらをエサとする野鳥が多く集まり、種類も豊富です。

ヒメマイトトンボ

1971年に涸沼で発見された日本で最後のトンボの新種が生息しています。

汽水域の湿地に生息しますが、近年生息地の環境^{かんきょう}の変化により、各地で個体数が減少していることから、絶滅危惧IB類^{ぜつめつ きく}（環境省レッドリスト2015）に指定されています。



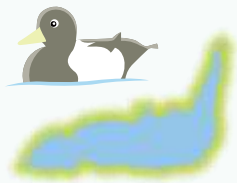
涸沼のラムサール条約登録要件

1. 重要な湿地の国際基準3つをクリア

- 絶滅危惧IB類の「オオセッカ」、絶滅危惧II類の「オオワシ」が生息（環境省レッドリスト2015）
- 生活環の重要な段階^{だんかい}を支える上で重要な湿地
- 「スズガモ」の個体数1%以上を定期的に支える湿地

2. 国の法律により、将来にわたり自然環境^{かんきょう}の保全が図られていること
（国指定鳥獣保護区^{ちようじゅう}）

3. 地元の自治体等（市町村、漁業組合等）が登録に賛成していること



ガイドブックで紹介する貴重種※には、★印を付けています。
 ※環境省レッドリスト 2015、茨城県レッドリスト（植物：2012、動物：2015）

涸沼の鳥 — 涸沼は野鳥のサンクチュアリ（聖地） —

重要な^{しつち}湿地の国際基準を満たしている鳥

スズガモ 冬鳥



★オオセッカ 留鳥



★オオワシ 冬鳥



東アジアの生息個体群の繁殖地はヨシ・スゲの湿地 毎年2月上旬に飛来。
 1%以上、2500羽が飛来。草原。

冬鳥 秋に北方から飛来し、日本で越冬する^{わた}渡り鳥。



★チュウヒ



キンクロハジロ



カンムリカイツブリ



ヒドリガモ



ハジロカイツブリ



マガモ



オオハクチョウ



オオジュリン



ベニマシコ

留鳥

同一地域に一年中とどまって、^{わた}渡りをしない鳥。



★カイツブリ



カルガモ



オオバン



★ミサゴ



カワセミ



カワウ



アオサギ



ダイサギ



ヒバリ

夏鳥

春に南方の越冬地から飛来し、日本では^{はんしよく}繁殖する^{わた}渡り鳥。



★チュウサギ



★アマサギ



オオヨシキリ



ツバメ

旅鳥

春と秋、^{わた}渡りの途中で一時的に日本に立ち寄る鳥。



キョウジョシギ



キアシシギ

涸沼の昆虫 ー生きものは創れないー

さちょう

貴重な昆虫

★ヒヌマイトトンボ

(茨城町指定天然記念物)



オス メス

1971 年、涸沼沿岸で発見された新種。

ヒヌマイトトンボの生態

幼虫（ヤゴ）は、海水が混じるヨシやイグサ類が密生した湿地にできた浅い水たまりに生息。羽化は、6 月からはじめから始まる。体長は、オス・メスともに約 3 cm。成熟後は、日中はヨシ原内のせまい空間を飛び、夕方には近くの水田や草地に移動する。8 月中には姿を消す。



涸沼川上流でふ化し、成長したヤゴが川を下り親沢の砂浜の水ぎわで羽化。繁殖のため再び上流へ移動。



湿地性ハムシの代表種。

★ナゴヤサナエ

★オオルリハムシ

涸沼の魚 ー水が物語る多様な空間ー

涸沼では海水魚と淡水魚の両方が生息する、汽水湖特有の生態系を見ることができます。近年、外来種の侵入により本来の生態系への影響が心配されています。

代表的な魚



マハゼ



ワカサギ



スズキ



★ニホンウナギ

ヨシ原にすむ魚



★メダカ



★ヤリタナゴ

特定外来生物

外来種のうち、その地域の生態系に大きな影響を与えるとされる。



アメリカナマズ



オオクチバス



ブルーギル

涸沼の植物 きばん —植物は生命の基盤—

植物群落

湖岸に見られるヨシ、ガマ、マコモなどの大型植物群落は、生きものの生息地や水質浄化じょうかなどの役割やくわりを果たしています。



ヨシ



マコモ



ヒメガマ

汽水域の植物

海水と淡水たんすいが混じる水辺にだけ生育する植物で、汽水湖きくしょうこである涸沼を特徴づけています。



★アイアシ

高さ 1.5m ほどの大型の多年草で、夏に花の穂ほを出す。ヨシに混じってまれに見られる。



★オオクグ

高さ 50～70cm になる多年草。夏にまっすぐな花の穂ほを出す。



★シオクグ

高さ 20～30cm の多年草。初夏に小さな花が集まった花の穂ほを出す。

きちょう 貴重な植物



★ミズアオイ

水辺や休耕田に生育する一年草。夏から秋にかけて美しい花を咲かせる。



★ミズオオバコ

水中に生育する一年草。夏から秋にかけて、花を水面から出して咲かせる。



★タコノアシ

湿地や休耕田に生育する多年草。9月頃に開花。花の穂ほがタコの足に似ていることから命名。

しせつ
酒沼周辺施設



けんめい 涸沼の保全や賢明な利用 — 涸沼の感動を後世に引き継ぐ —

涸沼におけるラムサール条約3つの柱の推進 すいしん

1 保全と再生

私たちの身の回りの生活を支える大切な生態系^{せいだいけい}として、幅広く涸沼の保全と再生を呼びかける。

2 賢明な利用 けんめい

人々の生活とバランスのとれた保全を進めるために、涸沼を上手に使う。

3 交流と学習

涸沼の保全や上手に使っていくために、人々の交流や情報交換、教育、参加などを進める。

1 保全と再生

- 河川や湖岸等清掃活動^{せいそう} • 湖岸植物等の復元
- 動植物の生育・生息環境^{かんきょう}の保全

NPO環〜WA わ

涸沼へ流入する、寛政川^{かんせい}沿い（茨城町^あ小幡^{おばた}）の荒れた里山や遊休農地で保全活動を行う。涸沼の豊かな生態系^{せいだいけい}を支える森林保全や水質保全を目的に、里山体験、水質調査、涸沼の生きもの観察などの体験イベントも行う。

URL <http://npowa-satoyama.com>



ヒヌマイトトンボ生息地の保全

昔は涸沼湖岸の各所に生息していたヒヌマイトトンボ。堤防工事や埋め立てなどによる環境^{かんきょう}の変化から、生息地が減少している。今後は残っている生息地の保全と、ヒヌマイトトンボの生息に適したヨシ原を復元していくことが重要。

上石崎地区^{かみいしき}では、ヨシ原の保全に取り組んでいる。



生息地の保全
(上石崎地区)

茨城町水と自然を守る会

沈水植物^{ちんすい}や小さな生きものを復活させ、自然の浄化作用を用いて水辺を再生させる研究に取り組む。



URL <http://net-ibaraki.com/shizen/>



発見者：(左)小菅 次男氏・(右)廣瀬 誠氏

2 賢明な利用

- ・ 涸沼周辺施設（自然公園など）の利用
- ・ 漁業の発展はってん ・ 漁協による資源保護しげん ぼご・管理
- ・ レジャー活動（つりやウィンドサーフィン）

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会すいしん

学校・団体を対象に農家や漁師の家にしゆくはく宿泊する民泊体験を通じて、農業、漁業、郷土芸能きょうどにふれあう体験プログラムをていきよう提供している。



大涸沼漁業協同組合

涸沼にやさしい漁業を目指し、ヤマトシジミの稚貝ちがいの養しょくと放流事業、漁場保全に関する組合員との連携れんけいに取組んでいる。



アクアワールド茨城県大洗水族館

森と川ゾーンの「汽水の生物」水槽などで涸沼に生息する生物をてんじ展示している。



3 交流と学習

- ・ 涸沼の保全や利用についての普及・啓発
- ・ 自然観察会や環境学習会かんきよう

クリーンアップひぬまネットワーク

恵み豊かで美しい涸沼の創造そうぞうを目指して、2001年に設立。流域りゅういきの住民、事業者、団体、行政が一体となって涸沼や身近な水質浄化活動じょうかに取り組むために活動している。

URL <http://www.hinuma-network.jp>



涸沼浄化推進小学校連絡会議じょうかすいしん

銚田市と茨城町の涸沼に流入する河川流域りゅういきにある小学校で構成され、涸沼の浄化のための活動内容の報告や協議を行い、児童の意識を高め、共通理解を図って、今後の活動に役立てることを目的に 1985 年から活動している。



涸沼のご案内

涸沼は、鉾田市、茨城町、大洗町の3市町にまたがる湖です。各市町の、涸沼を案内する施設やボランティアガイドをご利用ください。

鉾田市 『いこいの村涸沼』

しずむ夕日の絶景に心いやされる、涸沼湖畔の温泉宿。敷地内には、屋外レジャープール（夏休み期間限定）やパークゴルフ場もあり、宿泊しない方でもご利用できます。

茨城町 『涸沼自然公園』

34ha の広大な敷地には、自然の地形をそのまま生かしたユニークな広場が6つあります。特に高台にある「太陽の広場」は花だんに季節ごとの花が咲き、涸沼を一望できて見晴らしもばつぐんです。

大洗町 『夕日の郷松川』

地元の農産物などを購入できるほか、農業体験や昔遊び体験、バーベキューなどが楽しめます。美しい夕日や筑波山をながめることができます。

『涸沼ラムサールボランティアガイド』からのメッセージ



大洗町は涸沼と太平洋に面した漁業のさかんなまちです。涸沼の活シジミや太平洋でとれる鮮魚の案内のことならおまかせください。

大川 和浩氏（大洗町）

鉾田市はメロン、さつまいも、ゴボウ、みず菜の産出額が全国第1位。美味しい農作物が育つ鉾田市の魅力案内はおまかせください。

名雪 敬子氏（鉾田市）



涸沼と涸沼流域の森のボランティアガイドをしています。気軽に参加してください。

平澤 文子氏（茨城町）



生物多様な環境と農業生産が調和する涸沼こそ、世界にほこれるラムサール登録湿地と言えるでしょう。

清水 澄氏（茨城町）



〈写真提供者（順不同・敬称略）〉

山口萬壽美	内山 治 男
根本 紀 夫	仲 田 立
田口勝男	荻沼正和
前田信二	川島省二
小島裕美	森本泰弘

茨城町 鉾田市 大洗町
一般社団法人茨城県環境管理協会

発行 2016年3月
ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

URL <http://www.hinuma.ibaraki.jp>

茨城町町長公室企画政策課（事務局）	029-292-1111
鉾田市総務部企画課	0291-33-2111
大洗町まちづくり推進課	029-267-5111

